TOKACHI TOYAMA FARM

土の香り

「食卓に笑顔の種を届けたい。」

No.30　2015年

ホームページ
www.toyama-nojo.net

お電話、FAXでのご注文・お問合せ
電話＆FAX：0155-60-2110

編集発行:とやま農場　〒080-2106　北海道帯広市美栄町西6線128番地　携帯　090-5072-7922

暑中お見舞い申し上げます。
皆様お変わりございませんか？　いつも、当農場の産物をご愛食頂き誠にありがとうございます。
今年は春先から、乾燥、低温、さらに７月下旬の小麦刈り取り直前まで干魃が続き多くの作物の生育に影響をもたらしています。先輩達も初めての経験とこぼすほどの厳しい天候です。
　九州、本州の一部では豪雨などと、全国的にも「異常気象」には常々悩まされますが、それでもお陰様をもちまして、十勝管内を始め、多くの事業者さん・飲食店さんにお声がけいただき、お取り扱い店舗が増えています。
　今後とも、お客様に美味しい農産物を安定的にお届けできるように、土づくりを始め、農場の人づくりに取り組んでいきたいと思います。ご支援の程どうぞよろしくお願いいたします。

７月　外山 隆祥

☆ビッグ ニュース！！！☆

結婚式の前撮りは菜の花畑で

　とやま農場は今年、大きな変化の時を迎えました。
なんと、昨年末にはそんな気配も感じなかった長男 隆祥（２９歳）のもとに、嫁が来ました！！！！！おめでとう～パチパチ。（自分で言うのも何ですが…）
　昨年１２月より交際を始めた鎌田 暁子さん（３４歳）と2月12日わずか５０日で電撃入籍！その間は旅行、お互いの親への挨拶、両家顔合わせと毎週末イベントが盛りだくさん（汗）、6月6日に無事に挙式が終わり、あっという間に半年が過ぎ去っていきました。そもそもそんな短期間で結婚という人生の一大事が出来たのは、よき友人として相談したり、共通の友人らと共に街で飲み歩いた７年間の信頼があったからに他なりません。
　少し前までは祖父 徳男、母 聖子、自分の3人暮らしで、このままではとやま農場が自然消滅してしまうのではないか？と思う程でしたが、妻 暁子に加えて、岩手での学生生活を終えて肥料会社に就職した三男 佳裕、昨年より建設の仕事に携わっている四男 晶浩も実家から管内の職場に通っているため、大人６人が住まう大所帯へと変貌しました。これからも外山家に加わった妻 暁子共々、よろしくお願いします。

はじめまして！　妻の暁子です。

　帯広市にあるソーゴー印刷という会社で働いています。仕事はすでに12年目。生涯働きたいと思える会社、仕事のため、農業のお手伝いはせずに会社勤めをさせてもらっています。（別紙の農家のヨメ?!通信にもありますが、北海道発のスロウという雑誌づくりに携わっています）

聖子さんの「農業と結婚するわけじゃないから」というひと言にどれだけ救われたかわかりません。でも、農家の仕事は想像以上に大変で、そして面白い！　隆祥さんを始め外山家のみんなが顔を真っ黒にして働いている姿はとても美しく、頼もしく、ここに嫁げたことを幸せに感じる毎日です。
私たちの雑誌づくりの核になっているのは「北海道の足元の豊かさに光を当てること」。その理念にも通じる外山家の日々、そして農業は、私の仕事にとっても大きな影響を与えてくれるものと考えています。隆祥さんとは職業は違えど、お互いに情報交換・共有しながら、これからのとやま農場をつくっていきたいと思っています。

※スロウについて詳しく知りたい方、また書籍を購入したい方はホームページをご覧ください。　http://www.n-slow.com

菜の花ブライダルができるまで総集編

撮影 金野 和彦

６月６日（日）

外山 隆祥と鎌田 暁子の人前式が８０名ほどの親族、知人・友人に囲まれ3.5Haの菜種畑を眼下に執り行われました。当日朝は曇り空でしたが、式が始まる直前に雲がスーッと引いていき、天気も味方につけて青空の下で最高の挙式が出来ました。

青空の下 親族･列席者全員で記念撮影

昨年8月下旬に種を播いた菜種畑で（その時はこんな予想は全くしていません）「十勝・農家らしい結婚式を行いたい」と言う妻 暁子の夢を叶えるため、家族総出で菜の畑ブライダルの準備に取りかかりました。2月の入籍より数回に渡り、両家揃っての打ち合わせを入念に行いました。

知り合いの大工さんと足場設置

参加者全員が乗っても動かないしっかりとしたステージを組むため、知人の協力も得ました。不均衡な畑の上に正確な水平を取るため、レベラーを用いての本格的な作業が行われ、足場が設置されました。ステージとして用意した50枚ものコンパネには建築会社に勤める友人の作成してくれたCADデータを基に正確にとやま農場のロゴを転写、兄弟や友人とペイントをして9m×9mの特設ステージが完成しました。挙式前にはステージを開放し、多くの方々に菜の花畑の景観を満喫して頂きました「いただきますカンパニー」さんが主催する畑のガイドツアー「菜の花ピクニック」にもご利用頂きました。（詳しくは別紙参照下さい。）

数回に渡る両家打合せ

挙式後には倉庫に戻り、遠方よりお越し頂いた両家親族と共に懇親会“石窯ピザパーティー”を開催。四男 晶浩はステージ製作を始め、式当日・解体に至るまでを農作業手伝いの傍らで総合的にプロデュース。次男 剛士はお料理を担当し、三男佳裕と晶浩の友人の関美利河さんがアシスタントとして料理や配膳等を担ってくれました。小麦や越冬じゃが芋、春から準備をしていたハウス野菜など農場産のフルコースが振る舞われました。

サラダバー 懇親会の一コマ

暁子の弟 泰明さんの務めるワインショップからワインを手配、鎌田家の末っ子三穂さんと晶浩がＮＨＫの連ドラ「マッサン」に扮して司会を務め兄弟全員がそれぞれの立場で活躍。さらには晶浩の美利河さんとの婚約発表などのサプライズもあり、終始賑やかに無事終える事が出来ました。最後はステージの解体までみんなで手伝ってくれました。両家の普段からの仲の良さ、家族の協力があってこそのオンリーワンな挙式が開催できました。

この4ヶ月間で夫婦の絆、家族の絆を再確認する事が出来て、最高に幸せな一時を過ごせました。協力頂いた皆様に感謝。

北海道
十勝とやま農場

SINCE 1917

日々の農作業や
農村風景を発信
とやま農場FBページ
に「いいね！」

編集後記

挙式後に行われた親族の顔合わせにおいて新婚の2人から送られたプレゼントは、11年前に600部発行し、すでに私の棺に入れる1部を残すのみとなっていた夫の追悼集『土に生まれ　土に生き　土に帰る』でした。これは、追悼集を読んだ暁子さんとご両親が薦めて下さり、4人の息子たち、暁子さん、そして私が追記し再版したものです。11年のそれぞれの歩みに“育ってくれてありがとう”“ご縁をありがとう”そして、亡き夫に“いつも傍にいて見守ってくれてありがとう”感謝しかありません。お陰様で、暁子さんを迎え32年前に夫からもらったラブレターの1節『家族の全員が毎日明るさがあり、生き生きしています』に頷く毎日です。

追悼集をお読みになりたい方は、お知らせ下さい。　聖子